

会員数	35,232	(前月比) +108
郵送	8,806	(前月比) - 42
手配り	24,226	(前月比) 38
協同基金到達額	2,421,981,000円(3/31現在) [前月比 86,238,000増]	
協同基金出資者数	12,456名(3/31現在)	
いのちを守る助け合い募金額	51,828円(3/1~31)	

1部30円

ストレッチャーで患者さん役を搬送



3月21日、患者さんを中心とした。友の会から約40人が病院へ搬送するためのシミュレーションを行いました。加し、午前中は晴れの場合

搬送シミュレーション 外来運用シミュレーション

入院されている患者さんを安全に新病院に搬送するために、友の会と職員との共同でシミュレーションを行いました。外来運用シミュレーションも共同で行い、多くの会員さんに患者さん役として参加していただきました。

新病院完成 友の会と職員との共同で移転

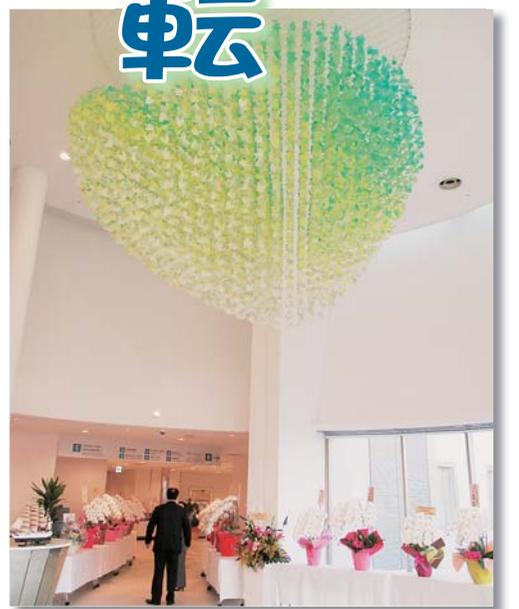


待合で待つ外来患者さん役のみなさん

の搬送方法、午後からは雨天時の搬送方法を行いました。会員さんには、患者役として車いすやストレッチャーに乗っていただき、搬送時の注意点を実際のルーフトを通り確認しました。3月22日、30日には外来

運用シミュレーションを行いました。外来患者さん役として、受付から診察までの流れや、院内の案内表示などの確認を行いました。この2日間の取り組みに約40人が、友の会から参加されました。

新病院へ無事に移転



エントランスにあるモニュメント

4月1日、移転当日はあいにくの雨模様となり、患者さんの搬送ルートが3カ所から2カ所になるなど困難が予想されましたが、友の会から多くの参加をいただいた、移転シミュレーションの経験を生かし、ほぼ時間通りに、また大きな混乱もなく無事に患者さんを

新病院へ搬送することが出来ました。4月4日には外来もスタートしました。新しい場所、新しい機械など患者さんにとって多くの不安があるなかのスタートです。様々な声に耳を傾け、地域のために友の会のみなさんと歩んでいきます。

新病院が完成して

八田宮園支部 丸井文子

昭和43年、耳原に就職しましたが、その当時の病院は木造2階建てでした。見学して決めたとはいえ、ここで働き続けられるだろうかと不安でした。一部の人の妨害にあいながら、地下1階地上6階建ての旧病院が完成した時、本当に感動しました。

療養し、職員も働き続けられることになりました。これほどうれしいことはありません。

あれから40年の歳月が流れ新病院が完成。良い環境で病院を利用する患者さんや地域の人たちが

この新しくなった病院で、地域の人たちに喜んで利用してもらえ、病院には職員の心意気にかかっています。患者さんがどういった状況にあるのか傾聴する姿勢を身につけて、困っていることを早く理解できる病院を作ってください。

聴診器

「螢の光」を英語で歌うときは戸口を閉めて小さな声で「朝の連続ドラマ『マッサン』

の一場面です。実話を基にした物語で、戦前・戦中・戦後の生業や街の様子も映しだされます。ドラマのヒロインはスコットランド出身ということもあって「螢の光」がよく流れてきます▼スコットランド民謡「螢の光」は童謡「赤とんぼ」「ぞうさん」と同様に5音階で作曲され、日本では「ヨナ抜き音階」別名「童謡音階」とも呼ばれています。また卒業式の歌として永く歌い継がれているのはご存知のおり▼ところで「螢の光」にも戦争の傷痕がみられます。現在歌われている歌詞以外に「千島の奥も台湾も」「台湾の果も樺太も」などがみられます。領土拡張に合わせ加えたのです▼太平洋戦争が始まって2年後の昭和18年(1943)に米・英の曲の演奏禁止、そして英語も敵性語として禁止されました▼因みに野球ではストライク・ツールのことを「よし2本」食品ではカレーライスが「辛味入汁掛飯(からみいりしるかけめし)」、楽器のサクソフォンは「金属製曲がり尺八」コントラバスの「妖怪的四弦」など驚きです▼戦争は歌や言葉までも歪めてしまいました。(八田兄一)